



東近江市【滋賀県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成29年3月 ■人口：114,631人 ■面積：388km²
■担当課：東近江市教育委員会 歴史文化振興課（平成30年3月現在）



平成18年に1市6町（3郡）が合併し、三重県境の鈴鹿山脈から琵琶湖までを市域に持つ。市域は、山・里・湖の地域を一級河川愛知川が貫流し、地域ごとに聖徳太子や織田信長にゆかりの地、木地師文化の発祥の地や近江商人の本宅群など豊富で多彩な文化財が市域全域で見られる。これら広範囲にわたる多様な文化財を可視化し、認知と活用の促進を目的に方針を定めた。

5 歴史文化を表す つのキーワード

中世・ものづくりと流通、地勢を活かした生活文化、
戦争と近代化、近江商人と流通、文化古代・万葉

課題

- ・市域を横断する文化財特性の把握
- ・所有者負担の軽減と継承者育成
- ・文化財認知の向上と活用促進
- ・文化財整備・保存の進展

保存活用方針

- ・文化財周辺環境を含めた一体的保存・活用
- ・文化財継承の支援制度確立
- ・広域的な文化財保存・活用

保存活用のための取り組み

観光資源としての活用

保存活用区域で設定した文化財をつなぎ、周遊コース等の整備を関係各所と協力して実施。また、観光客受入れの中心となるガイドの育成も行い、組織化に取り組んでいる。この取り組みは平成29年度より観光拠点形成重点支援事業の採択も受け実施している。



景観の整備・保全と活用の両立

「水辺の文化関連保存活用区域」において、日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」構成文化財「伊庭の水辺景観」のガイド組織立ち上げに取り組んだ。この取り組みにより、地元住民組織による文化的景観維持と観光資源としての活用の両立を目指している。



重伝建地区と周辺地域のまちなみ みが一体となった活用

これまで重伝建地区中心であった、まち歩きや伝建地区としての公開事業について、保存活用区域を設定し、伝建地区外の周辺地域や街道沿いと併せて関連付けが出来たことで、周辺地域と一緒に活用を実施している。

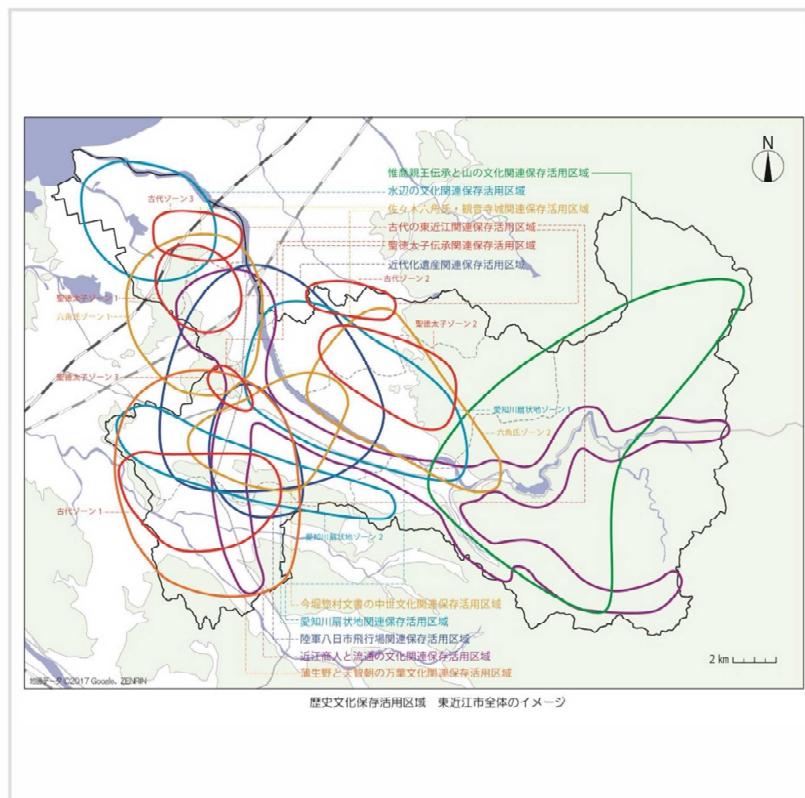


木地師文化や政所茶の技術継承 を目指した山の文化振興

奥永源寺は、鈴鹿山脈で市域最奥に位置し、山村ならではの文化が残る。惟喬親王が轆轤技術を伝えたとされ、木地師発祥の地である蛭谷・君ヶ畑や、「宇治は茶所、茶は政所」といわれた政所茶などを基本構想で取り上げ、山村地域文化の保存・継承に取り組んでいる。



◆ 歴史文化保存活用区域



東近江市は鈴鹿山脈から琵琶湖に至るまで山間部、平野部、湖辺部という地勢に分かれ、古代から現代にいたるまで多様な文化財が所在する。本市文化財の特徴である多様性とその魅力をわかりやすく伝えるため、7つの関連文化財群を設定し、さらにその特色に応じて11の保存活用区域を設定した。（古代の東近江と聖徳太子は表示上ストーリー①としてまとめている。）

ストーリー

保存活用区域

- ①古代の東近江・聖徳太子伝承（赤）
- ②蒲生野と天智朝の万葉文化（橙）
- ③佐々木六角氏・観音寺城（黄土）
- ④今堀惣村文書の中世文化（黄土）
- ⑤惟喬親王と山の文化（緑）
- ⑥愛知川扇状地（青）
- ⑦水辺の文化（青）
- ⑧陸軍八日市飛行場（紺）
- ⑨近代化遺産（紺）
- ⑩近江商人と流通の文化（紫）

関西地方

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

①テーマによる一体感の醸成

明確なテーマ設定とその地域を明示することにより、活用が促進され、自治会や地区といった区域を越えた連携や活用が可能となった。一例として、伝建区域ではこれまで一定線引きの中で様々な取り組みが行われてきたが、テーマ設定後は周辺地域も含めた活用も可能となり、区域外との一体感が醸成された。



②行政内部での連携の円滑化

関連文化財群や保存活用区域で、市域にある文化財の所在とその性質を明らかにしたことにより、行政内部の他計画等への反映が容易になった。また、計画策定に際しても、歴史・文化資産に対して意識がもたれるようになった。この結果、事業計画段階での問合せの増加など、関係各課の連携が円滑になった。



③地域住民の意識の向上

地域の文化財が顕在化し、地域での認知が向上したことにより、地域のまちづくり協議会や保存団体の自主的な活動が促進された。地域資源としての活用や、自分たちの文化財の価値が明らかになることによって、保存と継承への意識が高くなり、従前より地域住民のかかわりが深い事例が増えた。





多賀町【滋賀県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年3月 ■人口：7,538人 ■面積：136km²
■担当課：多賀町教育委員会 生涯学習課（平成30年3月現在）



多賀町の歴史的・地理的特色を再発見・再確認する機会とし、文化財を地域の自然や景観、くらしの文化も含めて、総合的にとらえなおし、文化財の保護を前提に、歴史文化と自然環境を活かしたまちづくりを目標とした新たな取り組みである。

5 歴史文化を表す つのキーワード

多賀信仰、敏満寺と胡宮神社、生活文化の古道、
水とともにある暮らし、石灰岩・石材・化石

課題

- ・空き家の増加、無住集落の荒廃化
- ・食文化や地域文化の継承
- ・文化財が身近なものとなっていない
- ・駅前から門前町への連続性、三社まいりの周遊化

保存活用方針

- ・歴史文化・自然環境の保全
- ・点在する文化財を面的に連続させる
- ・まちづくり活動と連携しあった文化財
保存活用

◆ 保存活用のための取り組み

保存：まもる

- ・文化財パトロールによる現況把握と記録・調査、修理方針の検討及び相談窓口の広報
- ・文化財に関わる団体や担い手の育成・支援
- ・文化財の基礎調査・情報収集の継続的実施、データベース化及び調査員の育成
- ・町内の無電柱化や看板など周辺の美観維持の検討

継承：つなぐ

- ・地域の学びの場づくり、食体験や農業体験などの実施
- ・寄贈、寄託資料の整備・保存の推進、公開施設の検討
- ・伝統構法による修理や建築基準法の適用除外への検討
- ・修理技術や担い手の育成・支援、修理材料の確保（茅場の復元）。福祉や教育との連携、協働体制を整備

活用：活かす

- ・シンポジウムやワークショップの開催、生涯学習や学校教育との連携
- ・情報共有化及び発信力の強化
- ・「地域づくり型生涯力レッジ」推進事業への取組検討

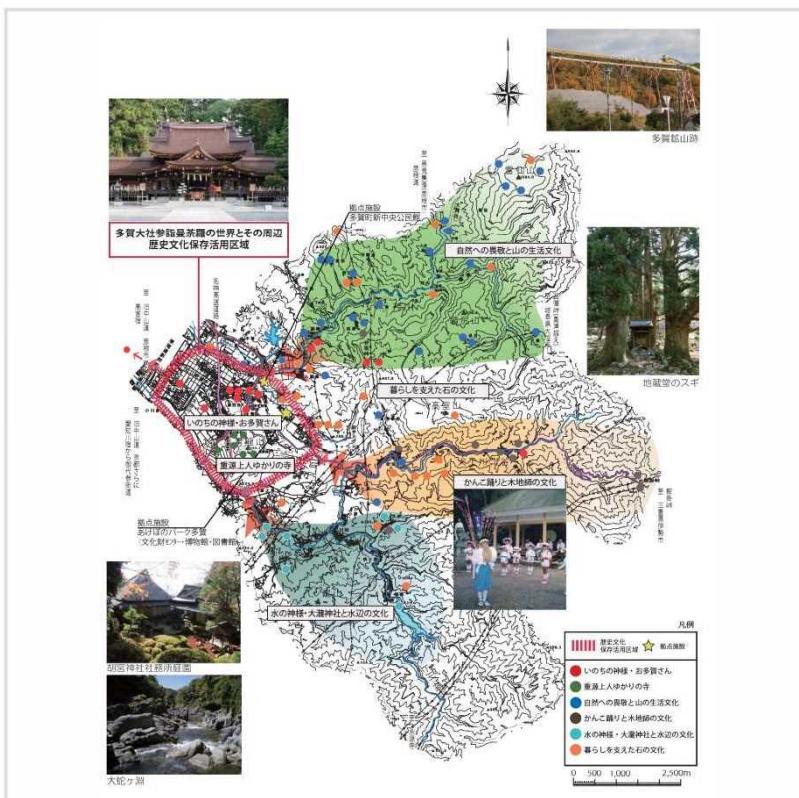


活用：活かす

- ・ルート整備や山歩きガイドの育成、誘導看板の整備
自然学習、地域学習のガイド講座の確立
- ・まちづくり協議会や独自の条例・制度の策定
を目指す
関連部局の連携、行政内の専門組織の確立



関連文化財群



関連文化財群は、特徴や魅力を分かりやすく伝えるテーマとキーワードをもとにして、以下の6つのテーマで構成した。

①の多賀信仰は多賀大社と古道というキーワードで、②の敏満寺と胡宮神社は史跡としての価値に加え、池や水との深い関わりがある。③～⑤の山間部は谷筋、古道による地形的区分に沿って、テーマを設定している。⑥の石の文化は町の全域に広がる関連文化財群で、信仰や古道と相互に関係を持ちながらも、独立したテーマ設定である。

ストーリー

- ①いのちの神様・お多賀さん
- ②重源上人ゆかりの寺
- ③自然への畏敬と山の生活文化
- ④かんご踊りと木地師の文化
- ⑤水の神様・大瀧神社と水辺の文化
- ⑥暮らしが支えた石の文化

関西地方

策定後の成果（見込まれる効果）

①地域住民への周知

町内の歴史文化・自然環境の魅力を共有し、関心を高め、住民参加を促すための取り組みを検討するため、当初は文化財センターと博物館が中心となる。将来的には、役場内で「(仮称)歴史文化基本構想連絡調整会議」を設置し、地域住民と協働で調査やワークショップ等を実施し、住民共有の財産として、データベースを作成し、その価値を共有する必要がある。



②歴史文化・自然環境の保護

未指定のものについては、保存・継承を図るために、地域住民やまちづくり協議会からの推薦等も広く受け、指定や登録を進め、将来的には、「歴史まちづくり法」に連動させて、保存や修理に対する支援を行う。そして、周辺環境については、景観の構成要素を抽出し、垣根を超えた多様な関連文化財群について保全が図れるよう検討する。



③まちづくりと一体となった活用

文化財の保護を前提として、広報活動を推進すると共に、学校教育や生涯学習との連携を図る。文化財センターと博物館や中央公民館を活動の拠点施設として活用する等、まちづくりと連携した取り組みが必要である。これらには、所有者・管理者、地域住民、地元各種団体・民間企業、専門家・学識経験者、行政などが協働して取り組んでいくことが重要である。





舞鶴市【京都府】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年3月 ■人口：83,778人 ■面積：342km²
■担当課：舞鶴市 文化振興課（平成30年3月現在）



舞鶴市では、赤れんが倉庫群等の身近な近代化遺産を官民が協働して調査をおこない、価値を掘り起こし、PRし、活用してきた。現在では重要文化財の建物を活かした「舞鶴赤れんがパーク」が多くの方に利用されている。このような近代化遺産が歩んだ保存・活用のサイクルを「赤れんがモデル」とし、他の歴史文化遺産でも同様の保存・活用のサイクルを「舞鶴モデル」として創造し、活用に役立てる。

5 歴史文化を表す つのキーワード

豊かな自然、海との繋がり、近代化遺産、
城下町、引き揚げ

課題

- ・歴史文化遺産の調査の推進・継続
- ・歴史文化遺産の周辺環境と一緒にと
なった保存
- ・歴史文化遺産の担い手育成 など

保存活用方針

- ・歴史文化の魅力を探る・学ぶ
- ・歴史文化の魅力を活かす
- ・歴史文化の魅力を引き継ぐ

保存活用のための取り組み

世界記憶遺産・日本遺産のブ ランドを活かす

世界記憶遺産登録・日本遺産認定により、舞鶴の歴史文化を発信する絶好の機会となっている。これらの遺産認定効果を一層高めるため、遺産のブランドを活かした取り組みを進め、平和学習を中心とした修学旅行誘致を推進するなど歴史文化遺産を活かした観光振興を図る。



指定等文化財の継続的な学術調 査の推進

舞鶴市の国・府・市指定文化財は平成29年（2017年）4月1日現在189件にのぼる。今後も舞鶴市の歴史文化を語るうえで重要な文化財の継続的な調査を進め、歴史文化遺産の価値の顕在化を進める。



大規模災害に備えた対策

大規模災害における文化財の被災状況確認のため、未指定文化財を含めた総合的な歴史文化遺産データの把握とデータベースの構築に努める。また、被災時の文化財レスキューのために、行政と大学・研究機関や歴史資料保存ネットワーク等との連携・協力を推進する。



伝統文化や歴史文化遺産の担 い手の育成

新たな伝統文化の担い手や舞鶴市の歴史文化遺産を次世代への継承するための担い手育成のための取り組みを支援する。



◆ 関連文化財群



舞鶴市は、日本海を航海した縄文時代の丸木舟、戦後の大蔵からの引き揚げなど、古代から現代まで海との関わりが深い都市である。そして多様な舞鶴市の個性を特徴付ける歴史文化遺産によって関連文化財群が構成されている。

具体的には豊かな自然や今も各地域で継承される祭礼芸能・伝行事、近世の城や城下町、近代の海軍と共に歩んだ港町、戦後の引き揚げの記憶など多彩な関連文化財群を挙げることが出来る。

ストーリー

- ①多様な自然に育まれた歴史文化
- ②人と海との関わりが息づく歴史文化
- ③山と里の信仰と交流が培った歴史文化
- ④近世城下町と里によって形づくられた歴史文化
- ⑤海軍鎮守府開庁により築かれた歴史文化
- ⑥引揚者を迎えた歴史文化

関
西
地
方

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

①市内への観光客の誘致

舞鶴の近代以降を特徴付ける「引き揚げ」や「鎮守府」がそれぞれ世界記憶遺産への登録・日本遺産の認定を受け、それらのブランド力を活かしながら観光部局等と連携し観光客誘致を推進している。平成28年度は前年度に対して11万人の増加を記録し、平成29年度は中間報告でそれを上まわる人数が報告されており、更なる増加が見込まれる。



②歴史文化遺産の保全

指定・未指定の歴史文化遺産を調査し、その価値を再確認することにより、舞鶴の歴史を語る貴重な文化財として継承していくべき必要性がこれまで以上に明らかになった。今後も、地域に埋もれている歴史文化遺産の指定・登録を行い継承を促す取り組みを進める。



③地域における伝統文化の保全

舞鶴市内各地で伝承される伝統行事や祭礼芸能は少子化により継続が危ぶまれているものも少なくない。構想策定中に全自治会を対象とした「地域のたからもの」アンケート調査を行って以降、伝行事・祭礼芸能に対する補助金の相談案件が増加した。今後も、地域の伝統を継承する取り組みを支援していきたい。





池田市【大阪府】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成29年1月 ■人口：103,501人 ■面積：22km²
■担当課：池田市教育委員会 教育部 生涯学習推進課（平成30年3月現在）



池田市は、古代の機織技術伝来の伝承や地域における祭礼などの伝統を継承しながら、植木産業や酒造り、インスタントラーメンの発明や電鉄会社による日本初の郊外住宅地の開発など、「事始めのまち」としての歴史文化を継承してきた。これらの歴史文化遺産を総合的に保存活用し、魅力を高め、「訪れたい・住みたい・住み続けたい」地域づくりを目指す。

5 歴史文化を表す つのキーワード

コミュニティ、ものづくり、
住宅・教育都市、交流、森と水

課題

- ・価値や魅力に対する認識不足
- ・情報発信力の不足
- ・地域の活性化という視点の欠如
- ・管理や継承の担い手不足

保存活用方針

- ・継続的な調査の実施
- ・観光施策の充実
- ・歴史を活かしたまちづくりの推進
- ・守り、引き継ぐ体制の構築

◆ 保存活用のための取り組み

歴史文化の価値の発信

- ・市史編纂事業
- ・市立歴史民俗資料館における資料収集・展示
- ・企業の資料館や博物館における資料収集・展示
- ・広報誌やホームページでの情報提供 など



歴史文化の保存・継承の担い手 の育成や意識啓発

- ・副教材の作成および小中学校での配布
- ・市内文化財公開イベントの開催
- ・歴史文学講座や歴史入門講座の開催
- ・市民の取り組みへの支援 など



歴史文化の保存

- ・調査研究の推進
- ・植木や池田酒などの伝統産業技術の継承
- ・歴史文化遺産の保全・整備・継承
- ・梅林などの衰微・亡失したものの復活 など

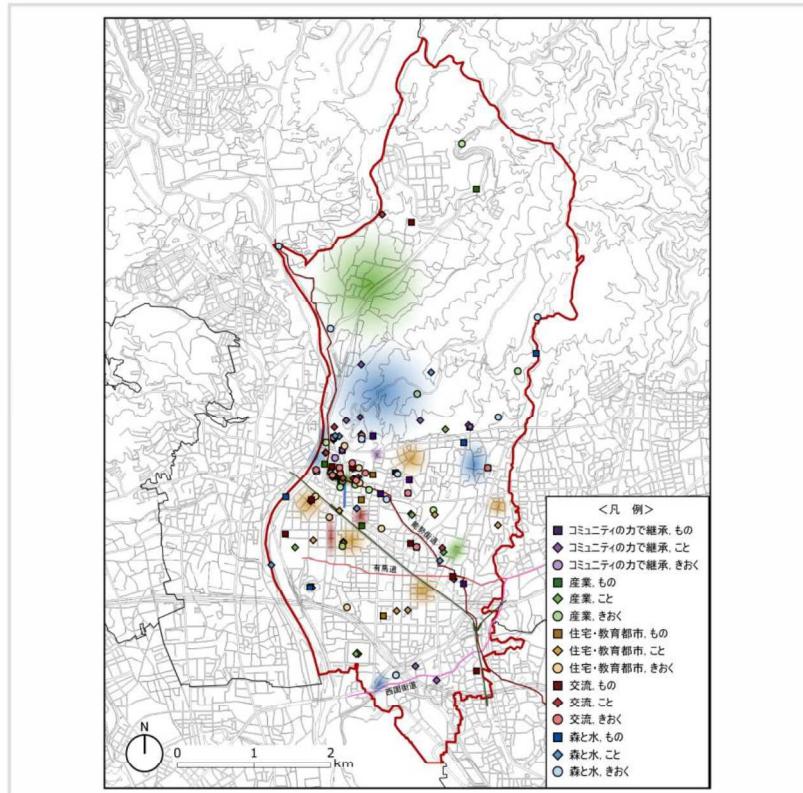


歴史文化の活用

- ・映画やドラマの撮影場所としての提供
- ・市内ガイドツアーの実施
- ・地域や学校での見学や授業の実施
- ・地域の歴史に関する冊子の発行 など



◆ 関連文化財群



市内に多数ある関連文化財群のうち、とくに戦略的に地域づくりに展開するものがたりを「池田市における歴史文化ものがたり」と位置付け、「まち・産業・人が織り成すく事始めのまち」の歴史文化」という池田市の歴史文化の特徴から、5つのストーリーを設定した。
なお、左図の点は、各歴史文化遺産の場所を示している。

ストーリー

- ① コミュニティの力で継承する歴史文化
- ② ものづくりの機運に育まれた歴史文化
- ③ 住宅・教育都市としての歴史文化
- ④ 交流が培った歴史文化
- ⑤ 森と水に育まれた歴史文化

関西地方

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① 観光振興

本市の豊かな歴史文化を、観光振興にさらに活用していくことが見込まれる。具体的には、歴史文化遺産を巡る観光ルートの設定、市民ボランティアガイド向けの講座やワークショップの開催、国内のみならず海外からの観光客を呼び込むための情報発信の強化などが考えられる。



② 市民主体の保存

歴史文化に関する市民の意識の啓発を通じて、歴史文化遺産の新たな発掘・価値付けが期待される。加えて、継続的な学術調査の実施、指定・未指定を含めた歴史文化遺産のデータベース化の推進、周辺環境との一体的な保全・活用などによって、より効果的な保存の措置へとつなげていく。



③ 次世代への継承

学校教育や社会教育と連携し、本市の豊かな歴史文化を市民に伝え、次世代に継承し、「シビックプライド」の醸成をはかる。また、池田みかん、池田酒、植木などの伝統産業や、がんがら火に代表される祭礼などの伝統文化の担い手の育成をはかる。





河内長野市【大阪府】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成27年12月 ■人口：106,713人 ■面積：110km²
■担当課：河内長野市教育委員会ふるさと文化財課（平成30年3月現在）



歴史文化遺産を将来にわたり的確に保存・活用していく上で「郷土に対する関心と愛着心を喚起」し、「多様な主体が参加できる仕組みを構築」しながら継承に努める。併せて「新たな価値付けを行い地域の魅力向上」させることを基本方針とし、「中世一山寺院とこれに関する有形・無形の歴史文化遺産群」など5つの関連遺産群を定め、9つの歴史文化遺産保存活用地区を設定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

中世一山寺院、中世城郭、高野街道、
里山集落、近世・近代の生業と産業

課題

- ・歴史文化遺産の保存継承を担う人材の確保
- ・未指定文化財の評価と保存と活用
- ・防災と文化遺産保護の両立
- ・歴史的景観を維持している生業や産業の低迷

保存活用方針

- ・歴史文化遺産の相互関連性を活かす
- ・郷土に対する関心と愛着心の喚起
- ・多様な主体が参加できる仕組み作り

◆ 保存活用のための取り組み

より地域に密着した小中学校での郷土歴史学習の推進

市内小中学校で行っている郷土歴史学習に、歴史文化基本構想で設定した関連遺産群や歴史文化遺産保存活用地区の内容を取り入れ、より校区に密着し、現存する歴史文化遺産をコンテンツとした授業を実施する。もって児童、生徒の地域への愛着と誇りを育てる。



歴史文化遺産、伝統文化の価値の情報発信

歴史文化基本構想の策定によって明確化した歴史文化遺産の群としての価値、面としての価値を市民と共有し、歴史文化遺産の保存・活用や地域課題の解決にも役立てる。また、市外へも積極的に情報発信し、交流人口を拡大させる。



開発団地と旧村による新しいふるさとの枠組みの創出

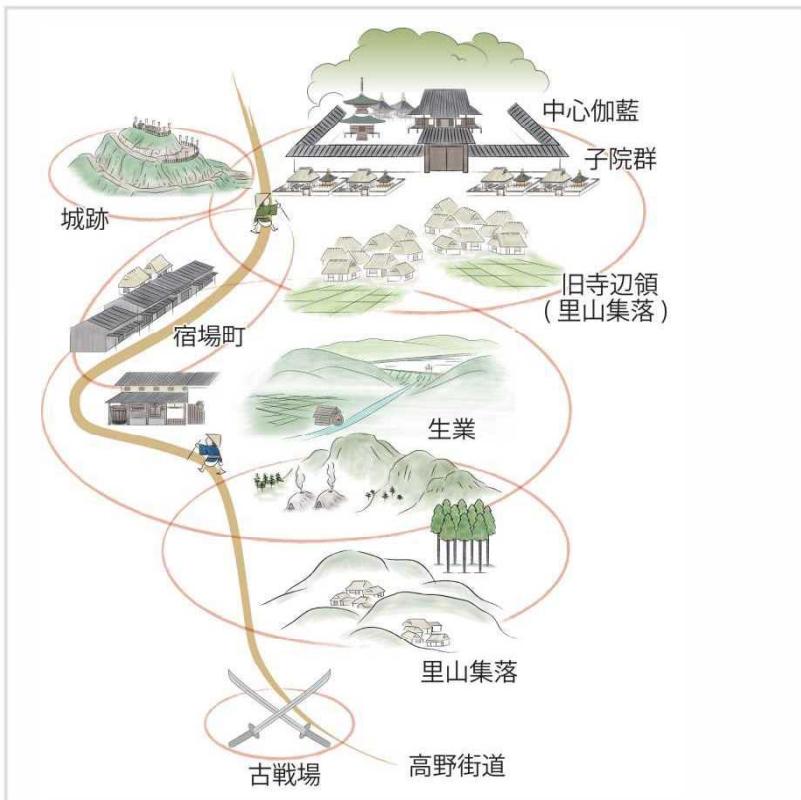
これまで、地域の伝統文化の継承を担ってきた旧村と多くのマンパワーがあふれる開発団地によって新しい「ふるさと」の枠組みを創出し、ともに、歴史文化遺産の保存と活用を進める。



歴史文化遺産保存継承団体の支援

歴史文化遺産を保存・継承している団体へ資金面、人材確保、専門知識等の様々な側面からの支援を行う。

関連文化財群



河内長野市域には、中世にあって大きな力を持ち、地域を統治した寺院があり、これらの寺院によって建造物、彫刻、文書の多種多様な歴史文化遺産が現代につたわっている。構想ではこれらを「中世一山寺院とこれに関連する有形・無形の歴史文化遺産群」として設定した。この他にも中世城郭、街道、里山集落、生業・産業に着目した関連遺産群を4項目設定した。

ストーリー

- ①中世一山寺院に関する歴史文化遺産群
 - ②中世城郭・古戦場跡に関する歴史文化遺産群
 - ③高野街道と宿場町に関する歴史文化遺産群
 - ④里山集落に関する歴史文化遺産群
 - ⑤近世・近代の生業・産業に関する歴史文化遺産群

策定後の成果（見込まれる効果）

①歴史文化遺産の価値の共有化

様々なジャンルの文化財を歴史的背景を基に繋げ、より分かりやすく、かつ地域にとって親しみやすい形で情報発信できるようになった。これによつて、市域の歴史・文化の特徴が何であるのか、どこに強みがあるのかについて、多くの市民と価値を共有できるようになった。



②地域を担う人材の育成

関連遺産群や文化財保存活用地区のコンテンツを活かした小中学校での授業、あるいは市民を対象とした講座やイベントの実施によって、市民のふるさとへの愛着と关心が醸成されている。今後、ふるさとに魅力と誇りを感じ、地域貢献できる人材が育っていくことが期待される。



③観光資源として新しい価値の創出

市内に数多く存在する
様々なジャンルの歴史文
化遺産を群として捉える
ことで、新しい価値が生
まれ、より魅力的な情報
発信が可能になった。今
後は、歴史文化遺産の面
としての、群としての活用
を進め、滞在型の観光
につながっていくことを目
指す。





姫路市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成24年3月 ■人口：532,249人 ■面積：534.35km²
■担当課：姫路市教育委員会文化財課（平成30年3月現在）



姫路は、古くから経済、政治など多方面で、常に重要な位置を占めた「大国 播磨の中心」としての役割を担ってきた。その恵まれた地理的歴史的な環境から、姫路城など多種多様な歴史文化遺産が残されている。これらを再発見、再認識し、生きた遺産として活用し、未来に引き継ぎ、新しい「ふるさと・ひめじ」の創造に寄与するための基本方針を示している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

大国播磨の中心、日本の宝・世界の宝、時代を駆ける、
伝承と伝説、魁

課題

- ・「保存活用重点区域」の設定と相互のネットワーク化
- ・市民、民間企業等、行政の密接な連携による構想の推進

保存活用方針

- ・適切な保存管理の推進
- ・新たな保護の仕組みづくり
- ・関連文化財群の活用

保存活用のための取り組み

文化財の適切な保存活用の推進

指定等文化財を確実に保存していくとともに、新たな核となる候補についての調査・研究を行っていく。建造物や史跡等の個別の構成資産については、適切な保存活用を進める。関連文化財についての包括的な保存活用のあり方について検討していく。



新たな歴史文化遺産保護の仕組みづくり

地域に残る伝承や周辺環境など、従来の文化財の範疇に含まれず、カバーできていないものもある。市民から一定の評価や支持を受けているものについて、他の事例を参考にしながら、新たな保護の仕組みづくりを検討する。



関連文化財群の活用

関連文化財群のストーリーが市民にとってわかりやすく、身近に感じられるよう、パンフレットや地図、サイン・説明板等の整備を進めるとともに、ARやCGなどのデジタル情報の開発と連携、質の高い体験プログラムの開発を進める。

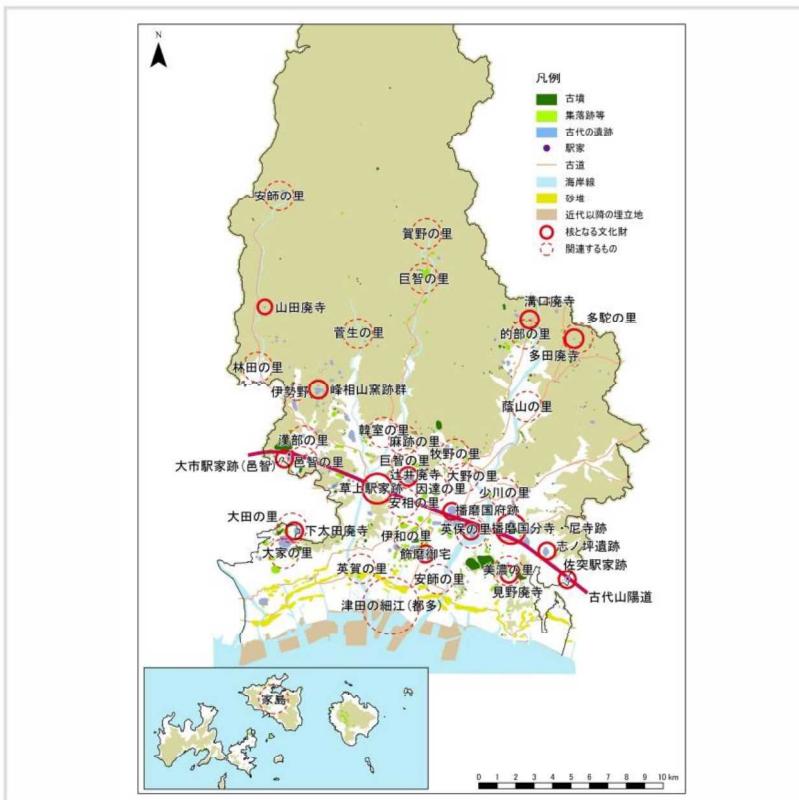


新たな関連文化財群の研究等

新たな関連文化財群について研究を進めるとともに、既存の行事等を再度位置づける。他都市の歴史文化遺産との交流や連携により、新たなストーリーの創出についても研究していく。



関連文化財群



姫路の歴史文化遺産を貫く大きなテーマを「大国 播磨の中心」とし、これらから導き出される関連文化財群を設定。根幹をなす大きなストーリーとして、播磨の古代を代表する歴史文化遺産の一つ風土記を取り上げた「神話と伝説」、近世城郭遺構の代表である姫路城のストーリー「近世の武家社会」の2つとした。これ以外に、円教寺をはじめとする仏教信仰をテーマとしたものなど4つのストーリーを例示した。

ストーリー

- ①神話と伝説～播磨風土記の世界～
- ②近世の武家社会～姫路城物語～
- ③みほとけの世界
- ④中世赤松氏の城跡と関連文化財群
- ⑤天下の軍師黒田官兵衛
- ⑥新生国家づくり

関西地方

策定後の成果（見込まれる効果）

①文化財のマスタークリエイション

文化財は、地域のアイデンティティの核となるものであり、歴史的建造物や史跡等は地域のシンボルとして、まちの魅力を増大させ、活力を向上させるための生命線ともいえるものである。歴史文化基本構想は、この根幹を成すものとして位置づけられ、今後の「ふるさと・ひめじ」のまちづくりへ活かしていくための基本方針となっていく。



②人づくり

歴史文化遺産の活用のためには、主体となる担い手の育成が欠かせない。新たな担い手をつくるとともに既に担い手となつた人たちにも、より高度な知識の習得や研鑽を可能としている。また、将来を担う子どもたちが歴史文化遺産に直接触れ、肌で感じる体験を促進することにより、郷土への理解を深め、愛着と誇りを醸成していくことが期待できる。



③地域づくり

市民団体やNPO法人等、学識経験者、建築士、ヘリテージマネージャ等による活動と行政による支援をさらに促進するとともに、相互のネットワークにより、地域づくりが全市的に広がっている。また、これまで行われてきた観光や地域の特産品などの開発についても、歴史文化遺産の取り組みに再度位置づけ、新たなひめじブランドの開発が期待できる。





豊岡市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成29年3月 ■人口：82,624人 ■面積：698km²
■担当課：豊岡市委員会教育総務課（平成30年3月現在）



コウノトリが空を舞う豊岡市には、多様な環境のもとで生み出され、伝えられてきた多様な歴史文化遺産が数多く残されている。しかし、これらは担い手不足などさまざまな課題を抱えている。豊岡市歴史文化基本構想は、世界に誇る豊岡市の歴史文化遺産を守り、活かすためのマスターplanである。

5 歴史文化を表す つのキーワード

日本海とアメノヒボコ伝承、城崎温泉、円山川と暮らし
城と町並みと街道、神鍋高原をめぐる文化

課題

- ・少子高齢化、生活様式の変化
- ・歴史文化遺産に接する場の整備
- ・未指定の文化遺産の保護
- ・所有者、市民、行政等のさらなる連携

保存活用方針

- 【方針1】発見・学びを楽しむ
- 【方針2】楽しみながら、ともに育む
- 【方針3】活かす楽しみを高め、広げる

◆ 保存活用のための取り組み

「ふるさと教育」との連携

“地域コミュニティ組織”に対応する区域を、「豊岡の宝もの」を活かしたまちづくりの基礎単位としてとらえ、小中学校での「ふるさと教育」と連携している。



「豊岡の宝もの」を活かした取 り組み

市民が「伝えたい」と考える歴史文化遺産（「豊岡の宝もの」）とその物語を活かした取り組みを展開している。例えば、「とよおか市民学芸員」を養成し、特に若年層・子育て世代が「豊岡の宝もの」の保護・活用を自発的に行う土壤づくりを進めている。



町並みの保存・整備

出石重要伝統的建造物群保存地区をはじめ、城崎温泉街や豊岡震災復興建築群など、市内各地に残る特徴的な町並みの保存・活用に努める。



歴史博物館の充実

豊岡市の歴史文化遺産を総合的に保存・活用する拠点とするため、さらなる充実を図る。より身近な館にするため展示方法の工夫や、若い世代が学習の成果を発表できる場の提供などを通じて、来館者の増加につなげる。





関連文化財群



豊岡市にはさまざまな歴史文化遺産、「豊岡の宝もの」が残されている。これらは単体で残されたものではなく、地域や歴史など、さまざまな要素のなかで形成され、受け継がれてきたものである。

そこで、「豊岡の宝もの」を相互の関連をもとに織りなした7つの「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語”を設けた。この物語は、地域への誇りを育み、活かすために活用していく。

ストーリー

- ①アメノヒボコの伝承
 - ②日本海の恵みと人々
 - ③城崎温泉
 - ④円山川と暮らし
 - ⑤城と町並み
 - ⑥神鍋高原をめぐる文化
 - ⑦京街道を行き交う文物

関西地方



策定後の成果（見込まれる効果）

① 「れきしまつり」の開催

若年層や子育て世代に歴史文化に親しんでもらうため「れきしまつり」や「ミュージアム出前授業」を開催している。

「れきしまつり」では、古代体験などをきっかけに、多くの子どもたちが歴史に興味を持ちはじめた。「ミュージアム出前授業」では、本物の出土資料に触れ、教科書だけでは知り得ない記憶に残る授業を進めている。



②歴史博物館リニューアル

親しみやすく、賑いのある「歴史文化遺産を活用する拠点施設」にするため、歴史博物館の外構工事や展示室のリニューアルを進めている

また「豊岡の宝もの」を地域の方とともに調査し、その成果を紹介する企画展を定期的に開催している。行政と地域との連携が増し、歴史文化遺産への関心が高まっている。



③「とよおか市民学芸員」誕生

3か年にわたる養成講座を経て、「とよおか市民学芸員」9名が誕生した。「とよおか市民学芸員」は、歴史博物館でのボランティア活動をはじめ、地域に残る歴史文化遺産を保護・活用するさまざまな場面で活躍している。

現在、第2期生を養成中である。今後も歴史文化遺産を守り、活かす活動につなげる人材を育成していく。





赤穂市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年1月 ■人口：48,177人 ■面積：127km²
■担当課：赤穂市教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



市内に所在する歴史文化遺産1,148件を明らかにするとともに、市内9地区それぞれの、特色ある歴史文化のストーリーを計26件、地区を越えた歴史文化のストーリーを10件抽出した。これらをまとめ上げる形で、赤穂市を代表する歴史文化のストーリーを6件設定した。最後に、これらの歴史文化を保護・活用するための基本的考え方とあるべき姿を定め、それを実現するためのしくみづくりを提示した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

川・海・まちなみ、塩づくり、赤穂事件と忠臣蔵、
まつり、遺跡

課題

- ・少子高齢化と人口減少
- ・過疎化
- ・世代間交流の減少
- ・身近な歴史文化遺産の消滅

保存活用方針

- ・歴史文化を守り伝えるための「あるべき姿」を実現
- ・「しくみづくり」を推進

◆ 保存活用のための取り組み

組織体制の充実

市内の地区ごとに、計24名の「赤穂市文化財保護連絡員」を委嘱している。連絡員は、歴史文化遺産の巡視、情報提供をはじめ、石造物の悉皆調査・報告書刊行などを行っているほか、地域における歴史文化遺産活用の中心的存在となっている。



施設整備

基本構想で設定した地域、もしくはストーリーごとに特定の既設施を改修し、情報の小拠点的な役割を持たせる。すでに整備されている拠点的な施設と、この小拠点とをつなぎ合わせることによって、来訪者が面的に散策でき、ストーリー性をもって訪れることができるようになる。



地域等の自主的な取組への支援

地域や団体が、歴史文化遺産を地域の宝として自ら主導的に行う取組事例が増えている。こうした事業に対し、専門的な見地から保護措置等のアドバイスや、広範かつ詳細な情報提供といった支援を行う。また、こうした活動から漏れてしまった歴史文化遺産の保護活用を図るなど、下支えも行う。

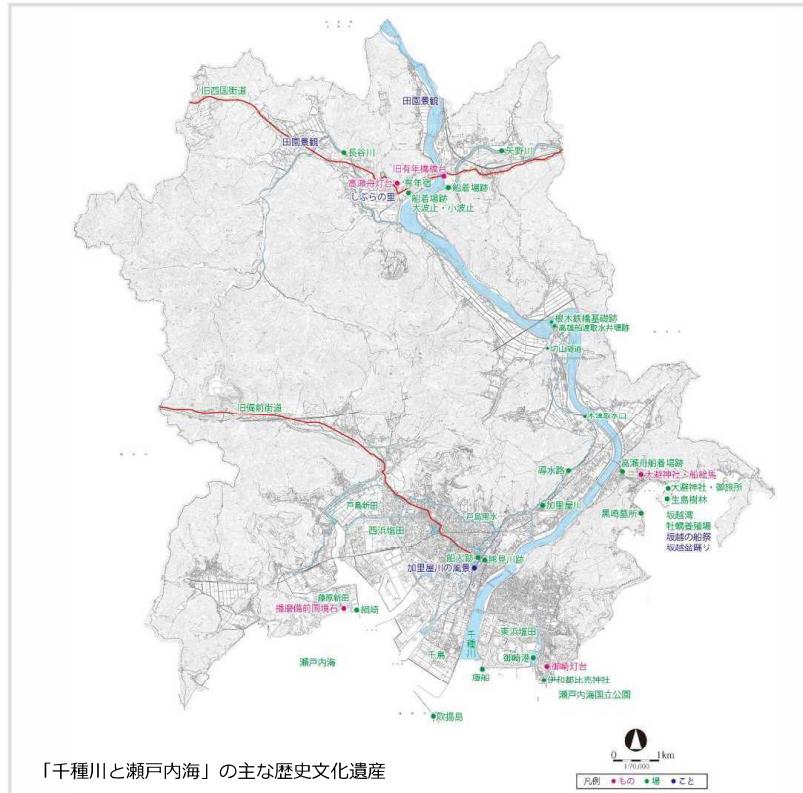


他関連分野との連携

歴史文化遺産は、単なる歴史文化資源ではなく、まちづくりや観光・産業分野、景観分野などさまざまなまちづくりの関連分野を「つなぐ」ものである。こうした共通認識のもと、歴史文化遺産を活かしたまちづくりについて、他関連分野と連携を図っていく。



関連文化財群



「千種川と瀬戸内海」の主な歴史文化遺産

「赤穂市を代表する歴史文化」として設定。赤穂市は、川や海に育まれた特色あるまちなみがつくられ、塩づくりの国として栄えた。また豊かな自然景観を背景に、さまざまな性格をもつ遺跡や、獅子舞、船祭など、特色ある祭礼が際立つ。さらに忠臣蔵という全国的に著名な歴史文化も欠かすことのできない特徴である。

ストーリー

- ①千種川と瀬戸内海
- ②まちなみと風景
- ③塩の国
- ④赤穂事件と忠臣蔵文化
- ⑤まつりといのり
- ⑥海の遺跡、山の遺跡

関西地方

策定後の成果（見込まれる効果）

①地域学習の基礎資料として

赤穂市歴史文化基本構想には、赤穂市の歴史文化に関する基礎データが地区ごとにまとめて掲載されており、地域住民や子どもたちが自らの地域を学ぶ際の基礎資料となる。また、これに触発され、新たな歴史文化遺産の発見につながることも期待される。



②まちづくりの基礎資料として

今後の観光やまちづくりは、歴史文化遺産を介して行われることが多く、地区ごとにまとめられた歴史文化遺産のデータは、その基礎資料となる。また策定報告書では、赤穂市を代表する歴史文化をビジュアルに訴えて紹介しており、Web公開によって市の魅力を発信することも目的の一つとした。



③防災の基礎資料として

本構想では、1,148件の歴史文化遺産の解説及び位置図が付されており、行政だけでなく、地域住民が自らの地域の歴史文化遺産を意識して防災に取り組む資料にもなる。また万一被災した際には、その復旧リストとしての性格も持たせることができる。





高砂市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成23年3月 ■人口：91,698人 ■面積：35km²
■担当課：高砂市教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



高砂市の歴史文化をひもとき、高砂市の個性や魅力を形成している歴史文化の流れを再確認し、それを将来に受け継ぎ活かしていくための考え方と方策をまとめた。歴史文化といつても過去を振り返るだけのものではなく、これから編み出されていく、将来の高砂の文化をどうしていくかを考える構想である。

5 歴史文化を表す つのキーワード

竜山石の文化、みなとのまち、塩づくり、
白砂青松、ひとづくりとまちづくりで結ぶ

課題

- ・文化財の総合的な把握や保存活用が不十分
- ・市民が地域に愛着を抱いている一方、歴史文化と結びついていない

保存活用方針

- ・歴史文化資源の価値の保存を図り、後世に受け継ぐ
- ・効果的な活用を図るため価値の顕在化を図り、まちづくりに活かす

❖ 保存活用のための取り組み

「竜山石の文化」…確実な保存と 魅力発信で活用

- ・古代から現代まで連綿と受け継がれた、生きた石の文化を継承し、将来へ受け継ぐ
- ・石切場の景観を活かした地域産業を生み出す
- ・全国流通した石の歴史を再認識し、新たな交流を生み出す情報発信に取組む
- ・歴史的特性を活かしながら、地域活性化に寄与する活用を展開する



「白砂青松」…失いかけた歴史 文化の再生がテーマ

- ・白砂青松の痕跡や史料を掘り起こし、「ふるさと文化財」への登録を進める
- ・残された自然地形や松を大切に守り育てる
- ・枯れてもなお植え継がれてきた各神社の靈松を大切に後世に伝えていく



「塩づくり」…現代につながる 地域を支えた産業の掘り起こし

- ・塩づくりに関する文化財を積極的に公開し、調査研究・情報収集と顕彰を進め、お宝を発掘する
- ・伝統技術を継承し、地域産業の情報発信拠点として保存整備を進める
- ・市民や企業の協力のもと、環境を活かしたものづくりやブランド作りに向けた活動を展開する



「みなとのまち」…文化交流や 経済の拠点をまちづくりへ展開

- ・歴史的建造物・まちなみ・祭礼等を受け継ぎ活かす
- ・個性や魅力をまちづくりの中で効果的に保存活用する
- ・資源の活用で、まちの個性を高め交流人口の増加や定住化促進などの地域活性化につなげる
- ・各みなとを結ぶルートを魅力的に広げ、拠点を保存整備する



◆ 関連文化財群



4つのテーマの関連文化財群が、関係性をもってまとまって存在する。「龍山石の文化」は、市域全域に広がり、龍山石切場と石の宝殿が中心施設に位置づけられる。「みなどのまち」は、市域南部の川沿いにある港町に集積し、歴史的建造物が中心施設に位置づけられる。「白砂青松・塩づくり」は、海岸線沿いに点在する。

ストーリー

- ① 龍山石の文化は、高砂の風景に息づく資源で、市全域に及ぶ、年代や地域ごとの特徴的なまとまりや石の生産システムに係る資源群である
- ② 白砂青松は、多くの文人歌人に愛でられた高砂の原風景で、何代にもわたり大切に受け継がれた靈松は、地域再生する動きにつながる
- ③ 塩づくりは、高砂の環境に根ざした伝統技術・産業で、歴史文化を学ぶ手掛けりとなる
- ④ みなどのまちは、文化交流の拠点で資源が集積した区域であり、個性に富んだ歴史的建造物やまちなみが広がる

関西地方

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① ひとづくり

学校教育や生涯学習の活動の中に、歴史文化のテーマにもとづく体験や講座を導入することで、子どもや地域住民に、地域の個性ある魅力を学び、体感する機会を創出している。市民や団体が、主体的に、地域の魅力を発信し広げる、まちあるきや文化観光ガイドなどの活動に役立っている。



② 観光による発信と推進体制の整備

歴史的町並みをライトアップしコンサートを行う「たかさご万灯祭」では、観光客が多数押し寄せ、まちの活性化や魅力の発信につながっている。市民・企業・行政が、相互に連携し推進する、体制づくりの整備につながり、歴史文化資源の保存活用が地域の観光振興につながっている。



③ 交流拠点の整備

龍山石の中核施設である採石遺跡が国史跡として指定され整備事業を進めている。みなどのまちにある江戸時代の堀川遺構や商家建築を保存整備し、拠点施設として活用を展開している。交流の拠点を整備活用することが、歴史まちづくりを具現化することにつながり、推進力となっている。





加西市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年3月 ■人口：44,524人 ■面積：150km²
■担当課：加西市教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



歴史文化を活かしたまちづくりに係るさまざまな主体が、目標や方針を共有し、連携・協力して歴史文化遺産を保存・活用し、個性あふれる魅力的なまちづくりを進める。歴史文化遺産の地域での活用の重要主体として、地区ごとに設立された活動団体「ふるさと創造会議」の活動を想定し、構想を策定した。市内の関連文化財群を3つのテーマ、9つのストーリーにまとめ、資料編では地域活用を前提に再整理した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

石の文化、播磨国風土記、法道仙人伝承、
五百羅漢石仏、第一次・第二次大戦遺産

課題

- ・社会情勢や生活様式等の変化で存続の危機に瀕している歴史文化遺産がある
- ・歴史文化遺産が、まちづくりや観光、教育等に十分に活かせていない

保存活用方針

- ・歴史文化を身近に思う
「調べる」「学ぶ」「考える」
- ・歴史文化の魅力を育む
「整える」「発信する」「使いこなす」

◆ 保存活用のための取り組み

ふるさと創造会議による 歴史文化遺産を活かした取組み

九会地区ふるさと創造会議では、所属するあびき湿原保存会による環境体験学習・自然観察イベントが実施されている。宇仁郷まちづくり協議会では、地区の歴史をまとめ、平成27年に「宇仁郷歴史資料館」を開館し、地区歴史文化遺産の拠点としている



小学生ボランティアガイドの育成

平成17年度より加西市立北条小学校（5年生・6年生）が「北条小歴史ガイド隊」を結成し、五百羅漢、住吉神社、酒見寺をガイド。平成28年には、宇仁小学校で「宇仁っ子ふるさとガイド隊」が結成された。



歴史文化遺産に関する 記念事業の開催

『播磨国風土記』編さんを記念し、平成25年度から27年度まで「加西市播磨国風土記1300年祭」とし、さまざまな関連イベントを開催した。
26・27年度の2ヶ年で、開設100年を迎えた青野原俘虜収容所の100周年事業として、学・遊両面のイベントを開催した。



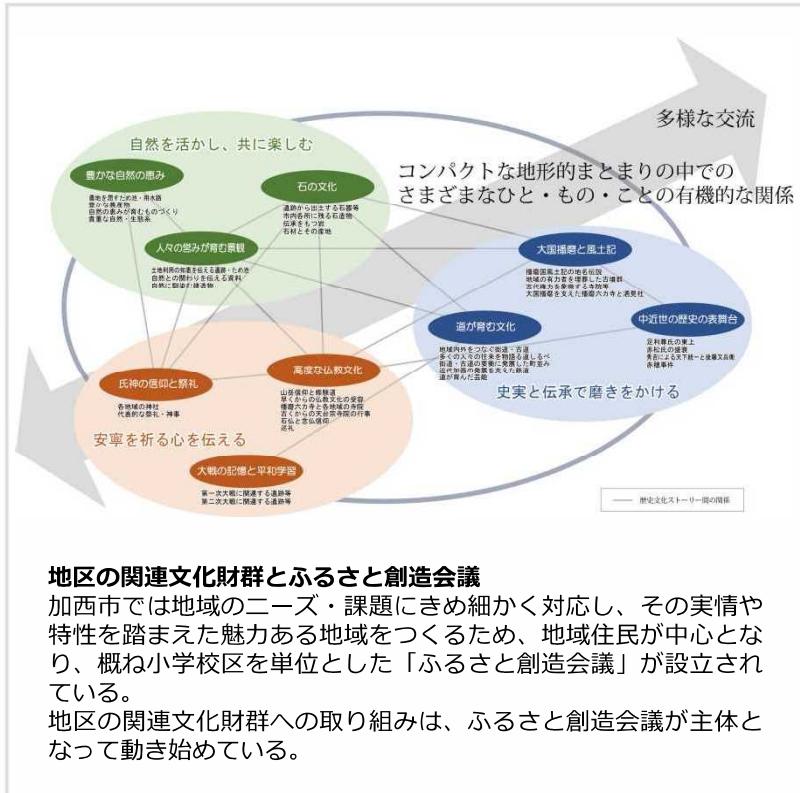
石の文化への取り組み

加西の歴史文化を象徴する石の文化を活用した取り組みを実施する。石彫り体験や地域の石造物調査等を通じ、石に触れる機会を増やすとともに「石の文化」の普及と魅力を発信し、石を活かしたまちづくり、景観づくりを促進する。





関連文化財群



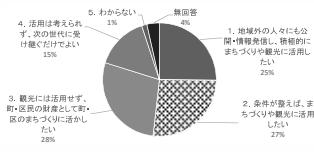
関西地方



策定後の成果（見込まれる効果）

①観光資源と地域の宝

構想策定時の住民アンケートの結果、約半数が「地域の歴史文化遺産をまちづくりや観光への活用」と、「地域住人たちだけの財産」とする意見が拮抗している。意見の大半が、この2つの方向性を示していることから、地域特性に合わせた、活用法が有効と考える。



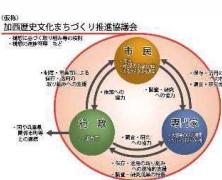
②歴史文化遺産の防災体制の強化

構想内で指定文化財だけでなく歴史文化遺産を保護対象としたことで、市防災計画への歴史文化遺産に関する記載が可能となつた。「歩くまちづくり推進計画」に基づき、日々の健康増進を兼ね、地域の歴史文化遺産を散歩することで、防犯体制の強化（「歩く歴史文化遺産パトロール」）を試みる。



③推進協議会の設立

構想の推進にあたっては、各主体が取り組みを効果的に推進するために、本構想の策定委員会を踏襲するかたちで、「(仮称) 加西歴史文化まちづくり推進協議会」を組織し、主体間の情報を共有し、連携、調整の場とするとともに、構想の進捗管理を行う。





篠山市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成23年3月 ■人口：41,968人 ■面積：378km²
■担当課：篠市教育委員会事務局文化財課（平成30年3月現在）



篠山市では、平成20年度から平成22年度の3年間にわたり、市域に広がる多様な文化財を正確に調査・把握し、学識経験者や市民代表の方々とともに、その保存・活用のあり方を検討しました。その検討をもとに、文化財の積極的な保存・活用を図り、歴史・文化を活かしたまちづくりを進めるための基本的な考え方として、「篠山市歴史文化基本構想」を策定しました。

5 歴史文化を表す つのキーワード

城下町、農村集落、窯業集落、宿場町、街道集落

課題

- ・文化財を保存・活用する担い手の減少
- ・田畠、山林の維持と管理
- ・建造物の老朽化、無住化

保存活用方針

- ・指定及び未指定の文化財を「歴史文化まちづくり資産」として位置づける
- ・「歴史文化まちづくり資産」を共有の財産であると認識し、学びながら活かす

◆ 保存活用のための取り組み

「歴史文化まちづくり資産」を 活かした防災まちづくり

伝統的技法と防災の最新技術の融合を図る防災まちづくりを進めるため、マップや防災計画を、まちづくり協議会単位で作成。



身近な「歴史文化まちづくり資 産」の管理

各集落に残されたお不動さんやお地蔵さんなどの小祠を地域住民で管理・維持。



まちづくり拠点として古民家の 再生・活用

重伝建地区である福住地区では、江戸後期の創建とされる民家を改修・整備し、福住地区のまちづくり拠点として活用。



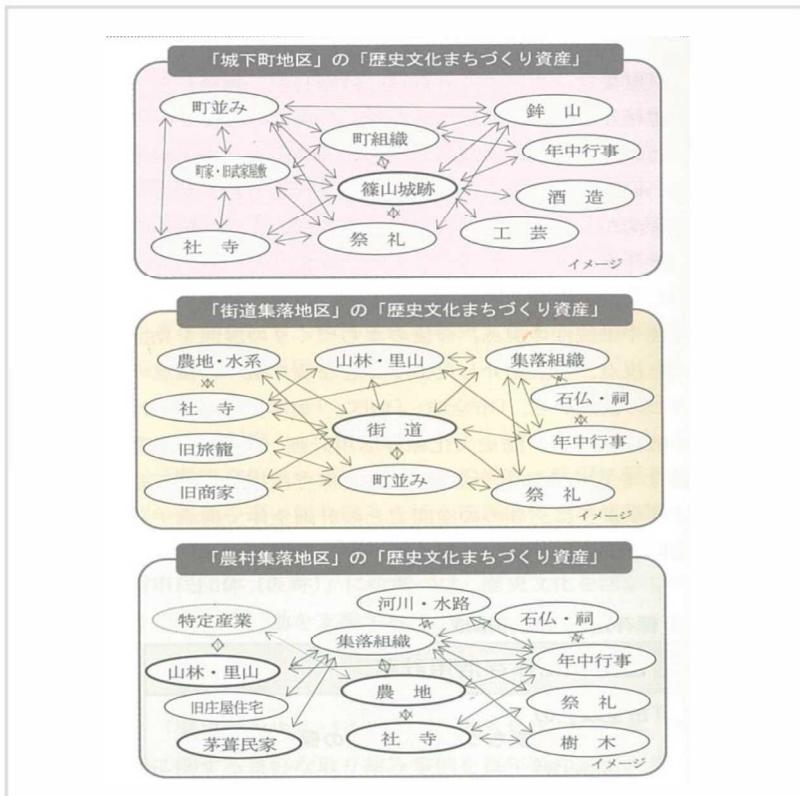
「歴史文化まちづくり資産」 の情報化

専門家等の協力のもと、市民を中心とした調査。「歴史文化まちづくり資産集落カルテ」の更新・公開を実施。





「地区」の「歴史文化まちづくり資産」の保存活用計画



「歴史文化まちづくり資産」は人々の暮らしを介して有機的に関連しているものであるため、地区の保存計画を「城下町地区」、「街道集落地区」、「農村集落地区」の3つの類型に区分。それぞれ篠山城跡、街道、農地を核とし、幅広い分野に関わる「歴史文化まちづくり資産」が存在。

地区

- ① 「城下町地区」
- ② 「街道集落地区」
- ③ 「農村集落地区」

関西地方



策定後の成果（見込まれる効果）

① 「資産」の適切な保存・活用

丹波茶の産地である味間地区では、毎年6月初旬に「大国寺と丹波茶まつり」が開催。祭りでは、茶葉を納めた茶壺を国指定重要文化財である大国寺に運ぶ「茶壺道中」が行われる他、重要文化財に指定された仏像が一般公開される。今後こうした「歴史文化まちづくり資産」を活用事例が更に増えていくことが期待される。



② まちづくりの仕組みの構築

重伝建地区である城下町地区では、篠山小学校の児童が河原町の妻入商家群について学習し、地域のマップ作成、来訪者へのインタビューなどを実施している。子供たちが地域の歴史や文化について学び、それを発表することを通じて、地域への誇りと愛着が育まれることが期待される。



③ 制度・事業等の活用

「歴史文化まちづくりアドバイザー」制度を設立・運用。この制度はアドバイザーの派遣によって、市民主体の活動を支援することを目的としている。今後は大学や専門家、NPO法人とも連携し、更に「歴史文化まちづくりアドバイザー」の育成を推進していく。





朝来市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成28年3月 ■人口：30,848人 ■面積：403.06km²
■担当課：朝来市委員会文化財課（平成30年3月現在）



朝来市は、山陰道・播但道・古代官道の結節点、すなわち「但馬の南玄関」である。古代から朝鮮半島との独自交流によって発展し、中近世には全国屈指の銀山を擁する生野が天下人の財源を支え、周辺に強固な城郭が作られた。明治には官営鉱山として日本の近代化に大きく貢献した。人・モノ・文化交流の中心地として発展した地域の個性を、まちづくりに活かしていく。

5 歴史文化を表す つのキーワード

交通の要衝、文化交流の拠点、古代王墓群、
中世山城城郭群、近代化産業遺産群

課題

- ・文化遺産を活用した観光振興と
保全、維持の両立
- ・少子高齢化に伴う人口減少による
後継者不足

保存活用方針

- ・地域産業の創出による地域活性化
- ・地域の個性を活かした環境整備
- ・次世代が地域を学ぶ教材活用
- ・郷土愛や地域の誇りを醸成

◆ 保存活用のための取り組み

地域産業の創出による地域活性化 への取り組み

生野鉱山の坑夫たちの冬の滋養強壮のために作られ、朝来市を代表する農産物「岩津ねぎ」。地域ブランドとして生産が進められるだけでなく、地域住民の提案による料理コンテストや地域業者とのコラボメニューを開発。



地域の個性を活かした環境整備 への取り組み

鉱山採掘とともに発展し、鉱山町独特の文化を育んできた生野鉱山町は、鉱山が地域住民の誇りとして根付いている。地域の歴史的建造物を登録文化財とするなど、景観の維持を図る。地域の歴史文化遺産を周遊し、観光を促進する取り組みを進める。



次世代が地域を学ぶ教材活用の 取り組み

学校教育における地域の郷土学習だけでなく、地域においても主体的に取り組む。朝来市の自然に触れ合うことで地域の個性を学ぶ機会を作る。合併以降、旧町単位ではなくより広い視野から地域の関係性を伝えていくことが求められる。



郷土愛や地域の誇りを醸成する 取り組み

地域の個性を自覚的に再確認し、魅力を高める取り組み。地元出身の児童文学作家を題材に、生まれ育った環境や時代背景を学び、文学を通じて地域の歴史との距離感を埋めることで、郷土愛や地域の誇りを醸成する。





関連文化財群



朝来市は、古代・中世・近現代の3つの時代において、核となる歴史文化遺産がある。特に、中世から近世にかけては、竹田城跡を代表として城郭群が多く存在し、当時の朝来市周辺の様子を紐解く2つのキーワードが見えてくる。ひとつは織田氏、豊臣氏による「天下統一」への道。もうひとつは当時日本が東アジアで最大の産出量を誇った「銀」の確保である。

ストーリー

- ①南但馬における古代王墓群
- ②中世から近世初頭にかけての城郭群
- ③生野銀山と関連資産による近代化産業遺産群



策定後の成果（見込まれる効果）

①地域住民の興味関心の醸成

竹田城跡や生野鉱山といった、全国的に有名なものではなく、地域が古くから大切にしてきた歴史文化遺産を再度洗い出し、調べてみようという取組みが増加している。地域自治協議会を窓口として文化遺産活用補助金を使ったパンフレット製作や、地域の声を形にした博物館展示などが行われるようになってきた。



②地域活性化、観光振興の促進

歴史文化遺産を観光振興につなげる取組みは朝来市の重要施策として実施しているところだが、行政だけでなく、官民が一体となった事業展開が図られつつある。日本遺産認定は、地域の歴史文化遺産を住民自らがPRし、地域の盛り上がりによって勝ち取ったものであり、地域の要望によって文化遺産の観光地整備が行われるなど、効果が表れ始めている。



③歴史文化遺産保護の取組み

生野地域においてもとより行われていた古文書調査研究が、全市的な取組みに拡大しつつある。域学連携によって古文書の整理、保管方法を学び、貴重な資料を地域で守っていくための技術向上の機運が高まっている。また、歴史文化遺産を巡るイベント等の開催や、文化財修理等にかかる問い合わせが増加している。





淡路市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成27年3月 ■人口：44,646人 ■面積：184km²
■担当課：淡路市教育委員会（平成30年3月現在）



淡路市の各地域に受け継がれる豊かな歴史や文化を次の世代に伝え、住み良い生活環境づくりや活力あるまちづくりに活かしていくための「道しるべ」となる構想である。淡路市では、この構想に基づいて、市民の皆さんやまちづくりに取り組んでいる団体、専門家の方々、国や兵庫県などと一緒に、歴史や文化を活かして様々な取り組みを展開していく

5 歴史文化を表す つのキーワード

記紀と国生み神話、海運と軍略の要衝、
御食国とものづくり、祈りと信仰、大地の胎動と防災

課題

- ・歴史文化の価値の共有がなされていない
- ・保存の仕組みや人材育成が十分でない
- ・活用が限定的で情報発信が十分でない
- ・保存活用主体間の連携がなされていない

保存活用方針

- ・歴史文化を活かしたまちづくりのための基盤をつくる
- ・歴史文化の価値を守り、伝える
- ・歴史文化の魅力を地域活力の向上に活かす

保存活用のための取り組み

淡路島日本遺産

淡路島の弥生時代から続く海の民としての歴史ストーリー「古事記の冒頭を飾る国生みの島・淡路～古代国家を支えた海人の営み～」が日本遺産に認定され、洲本市・南あわじ市・県、市民団体とともにフェスティバルなどの普及啓発事業や観光ボランティア育成事業を実施している。



和歌の路整備事業

淡路市西海岸は万葉集をはじめとして多くの詩歌の舞台となってきた地域で、現在、市内には万葉の時代の和歌の外にも多くの歌碑が建てられてきた。この地域資源を活用し、地域の活性化及び自立を目指す取り組みを展開している。



五斗長垣内遺跡の保存と活用

弥生後期の鉄器生産遺跡において、地域住民と市教委の共同作業による竪穴建物整備や、大学機関とも連携し鍛冶実験を実施し、専門家の指導のもと弥生の森復元プロジェクトを開催。歴史学習や地域産業・地理学習の場として小中学校の児童の受入も行っている。



淡路市国生み研究プロジェクト

弥生時代の淡路島の歴史を北淡路の丘陵部で急増する弥生時代後期の遺跡群の調査を通して明らかにするもので、平成27年から舟木遺跡重点調査としてシンポジウムを開催。平成28年度からは第Ⅰ期埋蔵文化財発掘調査を実施している。



関連文化財群

淡路市の歴史文化を構成する
7つのテーマ

「記紀」と国生み神話
国生み神話ははじめとした「古事記」「日本書紀」にまつわる歴史文化遺産が数多く残り、かつての中央政権とのつながりをもつ重要な地域とされていました。

祈りと信仰
巨石信仰やエビス信仰に係る神社や巡礼の靈場などが多くみられ、櫻尾の出る様々な祭礼・行事が現在に受け継がれています。

大地の胎動と防災
大地の胎動は、本市の歴史文化の基盤となる美しく豊かな自然風景を創り出します。阪神淡路大震災などの災害を引き起こしてきました。

海運と軍略の要衝
海運の大動脈であった瀬戸内海を介し、古くからモノや情報が行き交い、浦や港が栄えた一方で、古代から近代に至る軍略の要衝でもありました。

ものづくり
古代の鐵器生産遺跡をはじめ、古くからものづくりが盛んな地であり、近世に始まる醸造業作ります。現在も本市の地場産業として受け継がれています。

御食国
古くから海と山の幸にめぐまれ、古代には「御食国」でもありました。その後も、漁業・農業を中心とした第一次産業が人々の生活を支えてきました。

景勝地への来訪
海と陸とが作り出す美しい風景が人々を魅了し、古くから多くの人々が訪れ、数多くの詩歌が詠まれてきており、近年は観光地としての振わいもみせています。

淡路市には、海に囲まれた島（島）という環境のもとに、他地域とのかかわりのなかで築き上げられてきた「島国」固有の歴史文化が受け継がれています。七つのテーマが相互に関係し合うなかで、「海」と「陸」とをつなぎあわせることによって成り立つ『海と陸（おか）をつむぐ営みの歴史文化』であるといえます。

ストーリー

- ①「記紀」と国生み神話
- ②海運と軍略の要衝
- ③景勝地への来訪
- ④御食国
- ⑤ものづくり
- ⑥祈りと信仰
- ⑦大地の胎動と防災

関西地方

策定後の成果（見込まれる効果）

①文化財から歴史文化へ

歴史文化基本構想に基づき、指定文化財だけでなく、未指定の文化財も関連文化財群として捉え、保存活用を推進していくことで、地域住民が将来世代に受け継いでいきたいと思う歴史文化遺産を対象に事業を進めていくことが出来る。それにより地域住民の保存・活用に対する意識の向上を図ることができる。



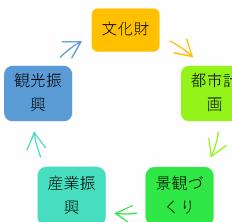
②市域を越えた取り組みの展開

歴史文化基本構想では、淡路島全体の歴史文化的活用を市域を越えて展開することで、より広域的な視点から淡路島の歴史文化を捉え、歴史文化遺産の適切な保存や、活用に向けた取り組みの充実が図れるとしている。その取り組みの1つのとして淡路島の日本遺産ストーリーを通して歴史文化の活用を行っている。



③地域づくり・まちづくりへ

地域の歴史文化遺産の保存・活用を地域住民と協働して行うことで、固有の歴史文化に磨きをかけ多様な魅力を発見することが出来る。そして、まちづくりや観光等の分野と連携を図り、歴史文化遺産を地域づくり・まちづくりに活かす「仕組み」づくりへ展開することで、次世代への継承が促される。





神河町【兵庫県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成28年3月 ■人口：11,592人 ■面積：203km²
■担当課：神河町教育委員会（平成30年3月現在）



私たちの町、神河町では、文化財や地域で長く伝えられてきた“宝もの”を「歴史文化遺産」と呼び、次世代に受け継いでいくための様々な取組を進め、まちづくりに活かしています。そして歴史文化遺産を活かしたまちづくりをより一層効果的に進めていくために、「神河町歴史文化基本構想」「神河町歴史文化保存活用計画」を策定しました。

5 歴史文化を表す
つのキーワード

地力が育む、自然と生きる、生業で育む、
みちで繋ぐ、記憶で紡ぐ

課題

- ・歴史文化遺産の把握に係る課題
- ・ひとづくりに係る課題
- ・しくみに係る課題
- ・保存活用に係る課題

保存活用方針

- ・「わがまちの宝もの」を輝かす基盤づくり
- ・「わがまちの宝もの」を守り、育み、活かす

保存活用のための取り組み

但馬街道と生野鉱山寮馬車道に 係るものがたり

かつて、播磨と但馬を結ぶ道は、多くの人々が往来し、江戸時代には沿道に宿場町が形成され、近代には、生野鉱山寮馬車道（銀の馬車道）として引き継がれた。現在も兵庫県の主要な南北軸として日本遺産に認定され、町並みを活かした様々な取組が行われている。



清流と名水に係るものがたり

神河の清流や水路はアユやオオサンショウウオ、ホタルなど多様な動植物の生息地となっている。とくに越知川は清流の恵みを受け、近年では名水街道と名付けられ、観光協会が中心となり、観光施設や店舗、地域の方々が連携し四季を通じたイベントを開催している。



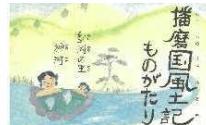
農業と特産品づくりに係るものがたり

河川から水を引き、水路や水車を設け谷筋に広がる農空間を形成し、農産物を産した。農業に関連した民俗行事も交流の場となっている。また、揚水のために設けられた水車は田園風景とともに地域づくりに活かされ、柚子やお茶は加工され特産品となっている。



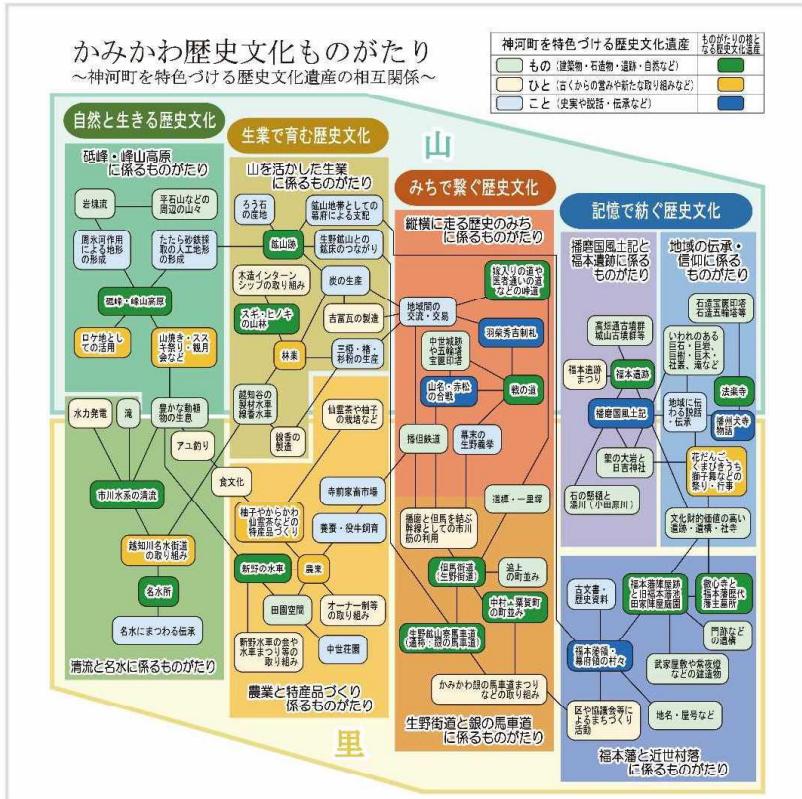
播磨国風土記と福本遺跡に係る ものがたり

『播磨国風土記』の「神前郡 聖岡里」の伝承に関連した歴史文化遺産や、旧石器時代から奈良時代を中心とした福本遺跡と周辺の古墳群等を一体として活用している。





関連文化財群



神河町の歴史文化遺産を指定文化財に代表される「神河町を特色づける歴史文化」と地域の宝ものに代表される「地域を特色づける歴史文化遺産」に分けた。これらの特質から「もの」「ひと」「こと」の3つの区分に分け、神河町の歴史文化の特徴を構成する歴史文化を4つのテーマにまとめ、相互が関係し合い作り出される数々のものがたりを地域づくりに活用する。

ストーリー

- ①砥峰・峰山高原に係るものがたり
 - ②清流と名水に係るものがたり
 - ③山を活かした生業に係るものがたり
 - ④農業と特産品づくりに係るものがたり
 - ⑤縦横に走る歴史のみちにかかるものがたり
 - ⑥但馬街道と生野鉱山寮馬車道にかかるものがたり
 - ⑦播磨国風土記と福本遺跡に係るものがたり
 - ⑧福本藩と近世村落に係るものがたり
 - ⑨地域の伝承・信仰に係るものがたり



策定後の成果（見込まれる効果）

①聖岡里から現代に繋がる暮らし

福本遺跡から始まる人々の営みや歴史や「播磨国風土記」を感じられる拠点ゾーンとして、現在に受け継がれる数々の歴史文化遺産を関連づけながら一的に守り、育み、活かす。地域内外の多くの人々が、学び、交流できるフィールドミュージアムとしての賑わいを創出する。



②播磨と但馬を結ぶ

但馬街道や生野鉱山寮馬車道の価値を掘り起こし、共有することにより、地域住民が誇りと愛着をもってまちづくりに活用していく。また、適切に守り、受け継ぐための措置を講じることにより、その魅力を広く発信し、学び、体験できる場を整え、多くの人々の来訪・再訪が見込まれる。



③歴史文化まちづくり

豊かな自然に育まれた歴史文化の魅力を高め、活き活きとした地域づくりへと展開し、多くの人々が地域への誇りや愛着を感じ「住みたい」「住み続けたい」と思う魅力的な居住環境づくりへと発展する。ひいては「訪れたい」と思われる環境づくりに繋がる。





新温泉町【兵庫県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成26年3月 ■人口：1,4134人 ■面積：241km²
■担当課：新温泉町教育委員会生涯教育課（平成30年3月現在）



新温泉町は、“日本列島誕生のダイナミクス”を物語る壮大な地質・地形の海岸や、地域で受け継がれてきた伝統芸能など、貴重な歴史文化遺産を数多く保有している。この貴重な歴史文化遺産をすべての人々が再認識し、人と自然との共生を基盤に、“自然と人間のかかわり”をテーマとした持続可能な町づくりを進めるために、地域住民と行政の協働による歴史文化遺産の活用を進めていく。

5 歴史文化を表す
つのキーワード

地質、北前船、伝統芸能
近代化遺産、天然記念物

課題

- ・長期的課題：歴史遺産を町民主体で活用していく環境を目指す
- ・短期的課題：歴史遺産を「町の宝」であることを認識してもらう

保存活用方針

- ・ガイド育成、パンフ作成、調査研究の実施など
⇒ ソフトメニュー
- ・展示施設整備、案内板設置など
⇒ ハードメニュー

保存活用のための取り組み

案内ガイド等の育成と充実

町内外の人々に向けて歴史遺産の価値や成立の過程などを説明できるガイドを育成する。
また次世代に歴史遺産の受け継いでいくために、ウォーキングイベントなど子どもから大人まで、各世代の町民の方に地域の歴史遺産に触れて知つてもらう機会を設ける。



ガイドブック作成、展示施設・案内板などの整備

町内にある歴史遺産がどのようなものであるか知つてもらうためのガイドブック、マップなどを作成する。また実際に見学・体験してもらうための展示施設や案内板などのハード的な設備の整備を進める。

周辺地域との連携ネットワークの構築

地域の歴史遺産の価値を再確認し、他の地域の活動についての情報を共有することで、相互に発展して行くことをめざす連携ネットワークを構築する。

調査・研究の実施

地域に昔からある歴史遺産について調査・研究を行ふことにより、歴史遺産の持つ価値や意義を明確なものとし、調査報告書などを作成することできることなく次の世代に継承できるようにする。



◆ 歴史的景観形成地区



味原川は町内を縦断し海へ流れ込む岸田川の支流で、川沿いには江戸時代から明治時代にかけて繁栄した旧家の石垣が並んでいる。周辺地区は兵庫県の歴史的景観形成区域に指定されており、現在資料館として活用されている七釜屋森家住宅（国登録有形文化財）を中心に、住民に使用されていた共同の洗い場や井戸、河口の港で積荷を載せた小舟が商家で荷を下ろした船着き場など、地域の歴史を今に伝える風景が残されている。

主な歴史文化遺産

- ① 商家の繁栄を伝える石垣群
- ② 国の登録文化財に指定された七釜屋森家住宅
- ③ 暮らしの歴史を伝える洗い場跡や水神様の社
- ④ 地域住民によって守られる虫の見られる川

関西地方

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① 地域の再評価促進

地域について学ぶ機会を増やすことで、子どもだけでなく上の世代でもこれまで知られていなかつた地域の歴史遺産の価値について関心が高まり、地域の魅力が再評価される。



② 関連事業への発展

新温泉町では、世界的に見て貴重な地質、自然を持つ「山陰海岸ジオパーク（世界ジオパーク）」、日本遺産「北前船」の構成市町として認定を受けているほか、町の伝統芸能である「麒麟獅子舞」の申請を検討している。歴史文化遺産活用計画は、これらの事業を盛り上げるうえでの核の部分となる。



③ 次世代への継承

新温泉町は全国の多くの自治体と同様に少子高齢化、過疎化が急速に進んでいる。そうした状況の中で歴史遺産の価値を町民の方に理解してもらうことで郷土に関心を持つてもらい、資源として町の活性化に役立ててもらい、歴史遺産を次世代へとつなげてもらう。





桜井市【奈良県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成27年3月 ■人口：57,705人 ■面積：99km²
■担当課：桜井市教育委員会 文化財課（平成30年3月現在）



古代から現代まで、国のはじまり、信仰の対象として、日本人の心のふるさとであり続けてきた桜井市の優れた歴史文化を将来につなげるという思いを込め、「大和（やまと）し美（うる）わし 日本の国のふるさと桜井」を基本理念に文化財の適切な保存活用と、歴史文化を活かしたまちづくりへつなげていく。

5 歴史文化を表す つのキーワード

ヤマト王権発祥、国のはじまりの地、
日本人の心のふるさと、記紀万葉、歴史街道の巷

課題

- ・地域力向上への活用
- ・地域・まちづくりへの活用
- ・観光・産業振興への活用

保存活用方針

- ・多様な文化財の保存
- ・文化財の公開・周知
- ・纏向学の提唱
- ・文化財に携わる人材の育成

◆ 保存活用のための取り組み

地域住民や市民活動団体、大学、 企業などの参加・協働

文化財の継承については、地域住民だけでなく、市民活動団体や大学、企業、観光客などの参加・協働をすすめるとともに、行政がコーディネートや広報、参加・連携の機会創出などを担い、支援していく。



府内の総合窓口づくり

新たな文化財の登録や、保存・活用に関わる市民からの相談、歴史文化に関わる市民活動団体同士の連携などを促すため、歴史文化に関わる把握、保存・活用、市民との連携などをマネジメントする総合的な窓口の設置に取り組む。

文化財の継承者・支援者の育成

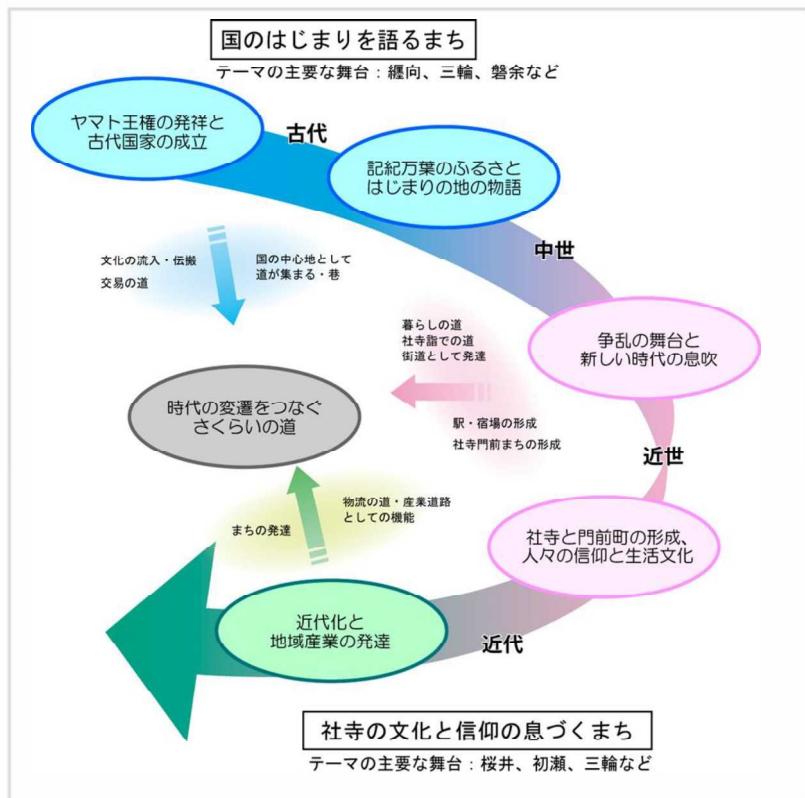
専門家や保存・活用の経験を持った市民団体などと連携することで、地域での学校教育や講習会、顕彰制度等により文化財の継承者・支援者を育成していくとともに、専門家などの紹介や派遣制度の構築に取り組む。



府内、及び周辺市町村との連携強化

市内の文化財は、指定文化財だけでなく、万葉集に詠まれた風景など多岐にわたる。そのため、教育委員会だけでなく、関係部局との連携が重要となるので、その強化に取り組む。また、広域的な連携が必要な文化財については、県や周辺市町村と連携して保存・活用に取り組む。

関連文化財群



桜井市の関連文化財群の分布は、古墳群や大神神社などの社寺、古道・街道など時代を通じた文化財が集積する市西部の平地部、中世の談山神社にまつわる社寺・祭礼が多い市南部の山地部、長谷寺を中心とした社寺・祭礼が多い市東部の山地部と、大きく3つのエリアに分けることができる。

ストーリー

- ①ヤマト王権の発祥と古代国家の成立
- ②記紀万葉のふるさとはじまりの地の物語
- ③争乱の舞台と新しい時代の息吹
- ④社寺と門前町の形成、人々の信仰と生活文化
- ⑤近代化と地域産業の発達
- ⑥時代の変遷をつなぐさくらいの道

策定後の成果（見込まれる効果）

関西地方

①歴史文化の価値の新たな発見

本基本構想により様々な資源を把握することで、桜井市の歴史文化の価値の整理を行った。その結果、新たな遺跡の発見や文化財の新指定といった更なる資源の把握につながり、桜井市の歴史文化の価値を新たに発見するきっかけになると考えられる。



②保存活用とまちづくりの相乗効果

各地のまちづくり・地域づくりの活動に、本基本構想の考え方を反映させることで、文化財の保存活用とまちづくりの双方に好影響を与える相乗効果が期待できる。地域・住民等がまちづくり・地域づくりの活動を通じて結果的に文化財の保存活用の活動に携わることも考えられる。



③景観づくりにおける歴史文化遺産

桜井市の景観は豊かな自然環境を背景に、文化財と農地、山林、河川、集落、人々の生活といった多様な要素が重層的に関係しあうことで形成されてきた。この固有の景観を将来世代に受け継ぐなかで、その重要な要素として歴史文化遺産を保存活用する視点が生まれると考えられる。





明日香村【奈良県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成27年3月 ■人口：5,621人 ■面積：24km²
■担当課：明日香村教育委員会 文化財課（平成30年3月現在）



明日香村は、1400年前に都が置かれ、「日本国」が誕生した地である。ここには古代からの情景をとどめる風土を基盤とした歴史文化が残り、それは「日本国はじまりの地」「あすかびとの暮らし」「日本人の心のふるさと」の要素が重なり展開する。これらの歴史文化を象徴する美を「美しあすか」と呼ぶ。「美しあすか」を学び、育むための基盤を整え、その歴史文化を守り、活かす指針である。

5 歴史文化を表す つのキーワード

美しあすか、日本国はじまりの地、あすかびとの暮らし、
日本人の心のふるさと、あすかの風土

課題

- ・歴史文化の価値の共有
- ・文化財保存の新たな方策
- ・周辺と一緒にとなった文化財の活用
- ・歴史文化を活かした仕組みづくり

保存活用方針

- ・「美しあすか」を学び、育む
- ・「美しあすか」の歴史文化を守る
- ・「美しあすか」の歴史文化を活かす

◆ 保存活用のための取り組み

伝承芸能の保存・継承 ～いにしえの技を守り、伝える

明日香村には古来より受け継がれてきた伝統的な芸能があり、復元・継承に取り組んでいる（南無天踊り・八雲琴・飛鳥蹴鞠・万葉朗唱）。明日香村伝承芸能保存会では、これらの活動を広く発信し、年間6回程度、見学・体験会を開催している。



これぞ「あすか」！ 飛鳥ブランドの認定

飛鳥で採れる農産物を素材に、歴史や風土、生活文化などのストーリー性を持たせ、農商工業者の技術力を駆使した「飛鳥ブランド」が平成22年に始動した。商工会を中心に、ブランド商品の認定とPR事業を展開し、また、ブランド開発支援やビジネスマッチングなども行われている。



劇団「時空」の 飛鳥歴史ドラマの創出

飛鳥の歴史にヒントを得た芝居を作る村民劇団「時空」が生まれた。村民が地域に誇りを持ち、観光客が飛鳥に魅了されるような公演活動が展開されている。公演は村内イベントに連動して開催されているが、村外でも不定期で実施。

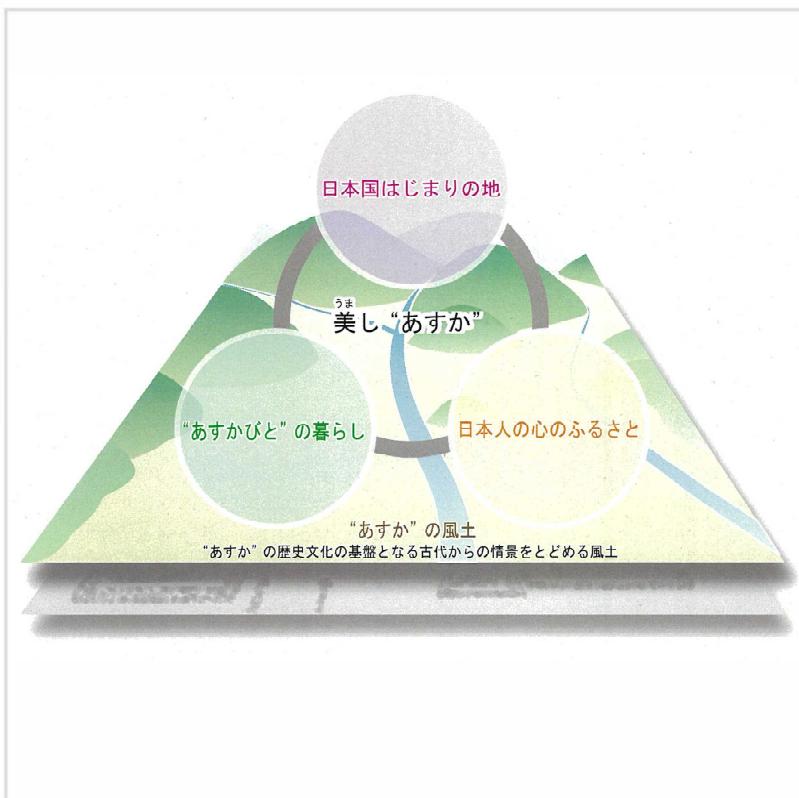


民家ステイ・農家民泊で 飛鳥を体験

村内における体験交流プログラムと民泊による教育旅行の受入推進、地域資源を活用した着地型観光を展開していくため、「明日香ニュータービズム協議会」を設立した。受け入れ家庭は村内で97件、権原・桜井・高取など含めた広域で188件となっている。



関連文化財群



基本理念である「美しあすか」を学び、育み、活かすために、その特徴を構成する「日本国はじまりの地」「あすかびとの暮らし」「日本人の心のふるさと」の3つの要素が相互に循環する関係を創出することにより、「美しあすか」が構成される。さらに3つの要素のもとに7つの関連文化財群を設定し、それらの相互関係を構築する。

ストーリー

- ①日本国誕生
- ②仏教の伝来と興隆
- ③東アジアとの交流
- ④農と山の生活文化
- ⑤信仰と習俗の継承
- ⑥古都への望郷
- ⑦万葉の世界

関西地方

策定後の成果（見込まれる効果）

①明日香まるごと博物館づくり

明日香村を屋根のないフィールドミュージアムとして、「明日香まるごと博物館」づくりを推進している。観（みどころ）感（体験）食（食事処）買（お土産）泊（宿）など現地で体感することを重視している。これらは歴史文化基本構想がそのベースとなる。平成26→29年度の観光客数は107%の増加率くなっている。



②日本遺産「日本国創成のとき」

平成27年に「日本国創成のとき～飛鳥を翔た女性たち～」として日本遺産第1号に認定された。このテーマは、歴史文化基本構想で提唱したテーマのいくつかと重なっており、認定にあたっての後押しになっている。日本遺産に認定されたことにより、地域での歴史文化の共有が進み、飛鳥の認知度の上昇に繋がった。



③民泊・民家ステイによる教育旅行

明日香村では、民泊・民家ステイ等での教育旅行を推進している。村内ではホテルや旅館が規制されていることを逆に利用して、泊まるだけではない、農家の作業や生活を体験できるプログラムを造成している。平成26→29年度の宿泊数は3200→6400泊に増加しており、特に、外国人に人気が高い。

